

令和4年度 第1回白根巨摩中学校自己評価書（前期）

令和4年8月24日作成

校長 浅利 司

記述者 教頭 内藤 大輔

学校教育目標

「思いやりの心と主体性・創造性を備えた白根巨摩中生の育成」

- ・学ぶ喜び・創り出す喜びを知り、主体的に学習する生徒
- ・正義を尊び、思いやりをもつ心豊かな生徒
- ・素直に見聞きし、考え、お互いを高め合う生徒
- ・心身ともに健康で、たくましく生きる生徒

取組重点

- 学習意欲と確かな学力の向上
 - ①教材研究の充実、効果的な授業の組み立て、学び合いを通しての深い学びの実現
 - ②信頼関係が保障される学級集団づくり
 - ③ICTの積極的な活用
 - ④家庭学習のさらなる改善
- 新学習指導要領の確実な実施と小中一貫教育に向けた取組の推進
 - ①新学習指導要領に基づく教育活動の改善
 - ②9年間を見通した教育課程の編成と改善
 - ③小中間での交流の推進（職員、児童生徒）
 - ④小中一貫教育に関する保護者・地域の理解の促進
- 生徒会活動における「4つのこだわり」と創造的な特別活動の推進
 - ①生徒会が掲げる「4つのこだわり」（挨拶。清掃、時間、服装）の、生徒主体での推進・充実
 - ②これまでの成果をもとにした創造的な特別活動の推進

I 全体評価

※A：5点、B：4点、C：2点、D：1点と数値で換算し、平均4.5を目標と考えた。今年度も引き続きこの指標を使い学校評価について考えていきたい。なお、生徒アンケートについては例年平均4.0を目標としている（令和4年度前期は全ての項目が4.0を上回った）。

全21項目中16項目（昨年度前期20項目中13項目）が目標を上回る結果となった。得点分布に関しては以下のとおりである。

- 4.5以上：16項目、4.4以上4.5未満：1項目、4.3以上4.4未満：1項目
4.1以上4.2未満：1項目 4.0以下：2項目

依然コロナ禍であり、感染症防止の対策を取りながらも、総合的な平均が4.5となったことは、教職員の各々の意識や実践が高い水準を保っていると評価できる。学習においては、新学習指導要領の実施2年となり、着実な理解が望まれる一方、新校務支援システム導入と合わせて、教科を3観点の資質能力でみとる学習評価の定着が進んできている。また、2年目となる南アルプス市指定の主体的・対話的で深い学びをめざす「学びの質を高める授業づくり推進事業」やGIGAスクール構想により導入された1人1台端末の活用等、授業づくりにおいては、さらなる研究が必要となっている。

課題となっているのは、家庭学習の定着、授業でのパソコン有効活用、部活動の指導、合唱指導、小中一貫教育の5点である。家庭学習については、一昨年度より週末課題（タイアップ・チャレンジ）の取組を行い成果も上がっている。家庭学習は家庭に方針にも関わるので、個々の合わせた対応も必要である。1人1台端末に活用については教科等により扱いの差が生まれている。教職員に対する研修も進んできているので、今後有効な活用が広がることを期待している。部活動の指導については、生徒との関わりやその競技等の結果、教科等とは違う専門性等があり、課題は多い。地域との連携含め、今後も協議・検討していく必要がある。合唱については、感染症対策を行いながら、1学期の合唱集会を実施することができた。コロナ禍の指導は難しいこともあるが、白根巨摩中の伝統である合唱を教育活動に今後も意識して位置付けていく。本年度から小中一貫校となった。小中の研究会を通して、さらに、小中相互が交流し、理解していくことを通して改善へつなげていきたい。

Ⅱ 各領域の評価	
1 学校運営	
達成状況	◇領域平均は4.7であり、学校教育目標の具現化に向けて、教職員の互いの協力体制が整っていると言える。 ◇報告、連絡、相談、確認を適切に行っていて、職場相互の信頼関係も良好である。 ◇校務分掌や各種委員会等への取組意識は高く、多くは達成度が高いと考えられる。 ◇「重点目標の取組」については平均4.5でやや低くなっているが、感染症拡大防止のため、活動が制限されている項目もあり、取組が難しい内容もある。
対応	・教職員一人ひとりが学校経営方針（教育重点目標）を十分に理解し、前年度の成果と課題にもとづいた教育活動を生徒の実態に応じて相互に連携しながら推進していく。 ・学校全体の教育活動に対して、共通理解の中もと、組織的に取り組めるように各自の意識を高め、検討・改善を行う。 ・「働き方改革のガイドライン」（山梨県）を参考にし、各自が勤務効率を考えた働き方について意識を高める。また、教職員のメンタルヘルスについて、管理職が細心の注意を払うよう心がけ、同僚性・協働性のある職場の構築に心がける。
2 教科指導	
達成状況	◇領域平均は4.3で、昨年度より高いものの、目標の4.5に及ばない。市の指定研究の推進やGIGAスクール構想に係り、またコロナ禍での推進と課題が多い。 ◇教師アンケート⑤「新学習指導要領を踏まえた授業改善や学習評価」は4.5となり、定着がみられる。今年度は市の指定「学びの質を高める授業づくり推進事業」の2年目の研究なる。主体的・対話的で深い学びをさらにすすめていく。生徒アンケートの授業の領域の評価の「授業の楽しさ」「授業の分かりやすさ」の値が改善傾向にあるもののやや低い。このことも念頭に入れた授業改善が必要である。 ◇教師アンケート⑦「家庭学習の定着」においては、昨年度より0.3ポイント上がり、「タイアップチャレンジ等」の週末課題の取組が定着し、成果も上がっている。生徒も週末課題の取組について肯定的回答が94%を超え、習慣化されていることが分かる。ただ、15%強の生徒は、それ以外の家庭学習についての取組が定着されていないことが読み取れ、特に基礎学力の定着については課題がある。 ◇教師アンケート⑧「授業へのパソコンの導入」については、数学などデジタル教科書も導入され、普段の生徒の使用率も上がってきた。だいぶ使用には慣れてきたが、授業への活用は部分的にとどまっている。
対応	・いまだ収束しないコロナウイルス感染症への対策を意識し「新しい生活様式」を踏まえた分かりやすい授業の改善、自ら課題を解決しようとする生徒の育成を目指し、校内研究の中で市の指定事業の研究と合わせ、研修を深めていく。 ・教科研究の交流の場は少ないと考え、オンライン等の通信方法を工夫し、できるだけ各校での授業の指導方法の共有が図れる交流を行うようにする。 ・管理職による日常的な授業観察を通して、指導・助言を継続して行う。 ・一人一実践の授業提案を通して、各個人の授業力の向上を図る。また、必要に応じて同僚の授業を参観し、自分の授業にいかすとともに、同僚の授業力向上に貢献できるような助言をする。 ・1人1台端末の授業への活用方法を教科ごと研究し、できるだけ場面ごとに使用する機会を増やしていく。今後、オンラインで「家庭で行う学習課題」を出せるように研修を進める。 ・週末課題としての「タイアップ・チャレンジ」を継続し、家庭学習の時間の確保と、習慣化について粘り強い指導を行う。また、生徒の連絡帳（やりとり帳等）や定期試験の学習計画表の取り組み表を活用して計画的に家庭学習を進めるように指導する。

3 生徒指導について	
達成状況	◇生徒アンケート②「学校でのきまりや約束事を守る」の項目の得点は4.7であり、生徒自身がきまりや約束を守っているという自覚をもっている。生徒会の4つのこだわりも定着しており、生徒自身で自主的に問題を解決していこうという態度が育ってきている。 ◇平均得点は4.7で、組織的な対応によく取り組んでいるといえる。教師アンケート⑨「問題行動等の早期発見・早期対応・早期解決」の項目は、各担任・学年・生徒指導・部活動顧問等を中心に職員の共通理解のもと、学年の枠を超えて全体で指導が行われている結果とみることができる。ただ、生徒アンケート③「困ったときに相談できる先生」の項目は改善傾向がみられるものの13.5%（昨年同時期18%弱）の生徒は否定的回答となっており、悩みを抱える生徒を学校が把握できない場面もあることが考えられる。 ◇不登校等のケース会議を関係機関と連携して定期的に行い、生徒・保護者の願いを丁寧に聴き取るよう心がけた。校内でも生徒支援会議を定期的に関き、各学年での支援する必要がある生徒について確認している。 ◇大きな問題につながる生徒指導がなく、未然防止の取り組みができた。
対応	・定期的に各学年の生徒の状況を共有し、精神面や家庭環境等についてその行動から分析し学校としてのきまりや指導重点について教職員が共通理解のもと、生徒の指導を行う。 ・問題行動が起こらないための未然防止として、生徒への声かけを積極的に行い、道徳や特別活動の取組から、心の教育を充実させたい。 ・本校では「いじめに対する基本方針」のもと、年5回のアンケート調査と個人面談等が行われている。今後も報告・相談・記録などを丁寧に行い、必要に応じて関係機関とも連携していくようにする。 ・小学生時期からの人間関係についても引き続き見取り、その関係改善や他の生徒との係わりを大切にする。生徒の連絡帳の記述や、悩みごと調査の実施やその後の面談等により、相談できる体制は整え、さらに生徒とのコミュニケーションをとっていくようにする。
4 特別活動	
達成状況	◇教員のアンケート結果は⑫「生徒の自治力の向上を目指し、計画的な指導を行っている」が目標とした4.4となり、目標値をやや下回った。しかし、生徒アンケートの⑨「行事への協力」や⑩「合唱活動への意欲」については、肯定的回答が97%を超え、生徒たちが意欲をもって行事への活動を行っていることが分かる。 ◇1学期はコロナ対策を取りながら、合唱や部活動等も例年通り行ってきた。合唱の指導は音楽教師を中心に行うことが多く、専門的で難しい面もあり、教職員の自己評価は若干低かった。生徒の合唱への意識が高く、今後も本校の伝統としての取組を続けたい。 ◇教師アンケート⑬「部活動の指導」は評価が低く、生徒の技能を高めるための取組については、専門性もあり改善しにくい面もある。授業以外に学年を越えた生徒活動を行う日常的な場面なので、生徒の健康安全面に注意しながら意欲を引き出し、結果のみにこだわらず、取組過程に自信をもたせるような指導をしていきたい。
対応	・5月、6月に参観者を小学校区に分け、授業参観を行った。保護者にとっては久しぶりの授業参観となった。一方、生徒会主催のものを始め、多くの行事を例年通りに行うことができた。2学期には本校最大行事である学園祭（桃響祭）を予定している。3年生を中心に全校的な場面での活動はリーダー性や自主性が育った。 ・清掃については3年生を中心に、主体的な活動を育成する場となった。生徒一人ひとりが「今何をすべきか」という社会の一員として考えることができる取組となっている。今後も生徒の主体性を引き出す取組を計画的に工夫していきたい。生徒会本部・学年生徒会・学級役員を中心に、自治的活動の基本となるような取組としたい。 ・今年度部活動の大会は、感染症予防対策に力を入れ、例年通り行われた。これまで同様毎週月曜日を「部活動なしの日」とするとともに、月に2回の割合で、月曜日は放課後に部活動や会議を行わない「きずなの日」とし、休日の部活動年間活動日数を69日以下にするよう定めている。今後も、これら部活動の負担軽減計画を確実に実施していく。

5 健康安全 信頼される学校	
達成状況	◇平均得点は4.8で目標数値を大きく超えている。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策は、安全で安心な学校生活を送るために丁寧に行っている。そのため、「生徒の健康安全」や「新型感染症防止対策への取組」については非常に意識が高く、生徒への指導もきめ細やかに行っていることがわかる。また、校舎の設備の整備についても意識が高いが、危険を予測する中で、環境整備を行っていく必要がある。 ◇新型感染症防止対策に対する生徒への指導は丁寧に行うことはもちろん、熱中症対策や通学路の安全確保、登下校指導等きめ細かく指導を行った。 ◇不審者情報や非常変災に備えて安全安心メールに全家庭が登録している。今年度は県や市の教育委員会からのやの指導も含め、メールやホームページの活用をし、家庭に状況を素早く伝え、不安や不明な状況が無いよう努めた。今後も危機管理を強化していくことに加え、保護者にとって必要な情報を迅速に提供するよう心がけていきたい。 ◇「健康安全」「信頼される学校」の領域はすべての領域の中でも最も高い評価となった。全教職員が生徒にたいして意識を高くし、生徒一人ひとりに対するきめ細やかな指導を行うよう心掛けていることがわかる。
対応	・毎月の安全点検により、校舎内外の危険箇所や破損箇所への対応を行ってきたので、さらに注意深く取り組みたい。 ・「新型コロナウイルス感染症」への対策は、状況ごとに臨機応変に対応し、生徒への教育活動を充実させていく。そのために、互いに協力・理解し合い指導を進めていく。 ・生徒への見取りをきめ細かく行い、様々な問題を未然に防いでいく。 ・リスクの先にある重大事態＝危機（クライシス）を想定し、学校事故の未然防止について組織的に共通理解する。 ・部活動の指導について、様々な場面を想定し安全対策を検討していく。 ・「学年便り」「給食・保健・図書・進路だより」等学校からの情報発信を積極的に行うとともに、「やり取り帳」「悩み事・心配事調査」等を通して家庭との連携を密にし、生徒の健全育成に向けて一層努力していく。